

- 校内模試スケジュール
- 中間考査に向けて
- 夏期講習申し込み 3年

## 「進路を考える」

副校長 高取 克明

4月に着任しました高取克明です。進路通信の寄稿を依頼され、過去の通信を読みました。どの文面からも、皆さんへの期待や寄り添おうとする先生方の意欲が滲み出ており、新宿高校の原動力を感じました。この寄稿で皆さんが何かを感じとってもらえたら幸いです。さて、テーマを「進路を考える」としました。考えるのは私であり、生徒のみなさんであり、この拙文を読んでくださるみなさんです。ですから、ここでは何かヒントになることを示唆できればと考えています。

かつて、小林秀雄（文芸評論家 1902-1983）はその著書「考えるヒント」（1964 文春文庫）の中で「ものを考えるとは、ものを掴んだら離さぬということだ。」と述べています。つまり、世の中のあらゆることに興味を持ち、突き詰めるまで考察することが大事だと一貫して述べています。言い換えれば、考える材料は身の回りに無限にあり、自分自身がそこに着目できるかどうかポイントになると言っているのだと思います。また、生涯「行動する作家」として、人間の行いに興味を持ち続けた開高健（小説家 1930-1989）は究極の知りたがりと呼ばれていました。そのあくなき好奇心と行動力の源は人間のあらゆる行いを通してその本質に迫りたいという強烈な思いであったと言われていています。大自然と共に、そこで暮らす人々が毎日を懸命に生きることの素晴らしさに気づかされます。そして、柳田邦男（作家 1936-）は「事実を見る眼」（1982 新潮社）等を通じ、ジャーナリズムの視点から、新たな観点でのものの見方を養い、自分でものを考え行動することの重要性を説いています。このように世代や立場を超えて、異なるジャンルの先人達はある時は共通した、またある時は全く違った角度から私たちにメッセージを投げかけてくれています。

このようなヒントをもとに、次のキーワードと共に、進路を考えてみたいと思います。私は進路を考える時に、自己理解（1年次）・自己研鑽（2年次）・自己実現（3年次）がポイントになると考えています。とことん考え、自分の視野を広げ、様々な視点からの情報を基に自ら決断していく。この過程が進路を考える上で重要となります。そして、この過程は、皆さんが目的を持って活動する全てのことに当てはまっています。短期的には毎日の行動に、中期的には高校期の活動として、長期的にはライフプランに繋がっていると考えてよいでしょう。また、このような毎日の積み重ねは誰もが実践可能な事であって、「気づくか気づかないか」、「やるかやらないか」、「諦めるか諦めないか」とも言い表すことができます。私は野球に携わってきたので、野球を通してこのような考え方を実証してきました。「野球にはあらゆることがあてはまる」（神田順治 1915-2005 ベースボールマガジン社）「甲子園の心を求めて」（佐藤道輔 1938-2009 報知新聞社）にも現代のあらゆる分野につながるヒントが述べられています。

今まで多くの先人達が同じようにこの過程をたどり今日に至っています。そして、その結果は人それぞれです。その結果について納得するかしらないかはこのプロセスを積み上げてこられたか来られなかったかに帰結しているように私は思います。時に立ち止まり、時に振り返り、時には違った道から自分を信じて毎日を積み重ねていきましょう。

「歩いた後が道になる。」今日も新宿の森を好奇心旺盛に探索してください。みなさんの歩みが新しい時代を切り拓く一歩となることを期待しています。

## ○今年度 校内模試スケジュール

新宿高校ではいくつかの外部模擬試験を、実力テストなどとして、校内で実施し全員に受けてもらいます。駿台や河合の模試は校外会場でも実施されますが、同じ模試の場合は外会場では受けないで校内で受験してください。学年ごとの予定は以下の通りです。

### 1年生

- ・スタディーサポート1年用(ベネッセ) 4/30 金
- ・進研模試7月(ベネッセ) 7/7 水
- ・GTEC 9月第3週
- ・進研模試11月(ベネッセ) 11/10 水
- ・全統高1記述模試(河合塾) 2/2 水
- ・河合塾学びみらいPASS 3/9,10 水,木

### 2年生

- ・進研模試7月(ベネッセ) 7/7 水
- ・GTEC 9月第3週
- ・進研模試11月(ベネッセ) 11/10 水
- ・全統高2記述模試(河合塾) 2/2 水
- ・河合塾学びみらいPASS 3/9,10 水,木

### 3年生

- ・第1回全統記述模試(河合塾) 5/22 土
- ・駿台全国マーク模試 7/7,8 水,木
- ・第2回駿台ベネッセ記述模試 10/4 月
- ・第3回全統記述模試(河合塾) 10/24 日
- ・第3回駿台ベネッセマーク模試 11/9,10 火,水
- ・全統共通テストプレテスト(河合塾) 11/21 日※外部会場で受験

※ 3年生はこの他に、各自が必要に応じて模試を受験します。主な試験は学年から連絡済みです。

11月21日(日)の河合共通テストプレは外会場での受験になりますが、申込み手続きは学校が一括して行います。

3年生の模試ではマークと記述を組み合わせでドッキング判定が行われます。

まず、10月4日(月)の第2回駿台ベネッセ記述模試と11月9日(水)の第3回駿台ベネッセマーク模試とでドッキング判定が出ます。また、これとは別に、10月24日(日)の河合塾の第3回全統記述模試と11月21日(日)の河合共通テストプレでもドッキング判定が出ます。

駿台ベネッセと河合塾それぞれでドッキング判定が出るわけですが、これらはさらに共通テスト本番の結果とのドッキング判定も可能です。こうした判定結果を参考にして最終的な出願校を決めていきます。

## ○1学期中間考査迫る 5/24・25～28

学力の伸び方は教科、科目によってさまざまです。英語や国語は積み重ねの教科ですから、地道な努力を続けるほかはありません。だからこそ、1年生の時から授業を大事にし、定期考査ごとに自分の弱点を分析し、克服していくことが大切です。これに対し、地歴・公民や理科の科目は、1年の時だけ、あるいは2年の時だけしか授業がないという科目があります。そういう科目で受験を考えている人は、その時の授業がまさしく受験勉強そのものでもあります。1年生だから受験はまだ先の話、とはいきませ

ん。あとでもう一度ゆっくり勉強し直そうと思っても、実際にはそういう余裕はありません。学ぶべき事は次々出てきます。「定期考査は恰好の問題集」とも言われます。答案用紙が返却されたら少なくとも間違えた問題は解き直しましょう。

1年生にとっては最初の定期考査。いまからしっかり計画を立てて準備しましょう。最初の考査で波に乗ることがペースをつかむ上で重要です。多くの卒業生も「最低でも定期考査だけはしっかり取り組んだ。」と言っています。

## ○夏期講習申し込みについて（3年生）

3年生向けの夏期講習の予定一覧が発表になりました。講座内容をよく確認の上、期日までに申し込みを行ってください。

申し込みの際には以下の点に注意。

### ① 欲張ってとりすぎない

予習や復習が必要になりますから、一日に2講座程度がよいでしょう（やむを得ない場合でも3講座）。夏期講習をとおしては10講座ぐらいが限度だと思います。

### ② 学習の主体はあくまで自分にある

皆さんが自分で夏休みの学習計画をたて、その中に夏期講習を上手に利用するという考え方がよいでしょう。受身の学習ではなく主体的に学習計画を考えましょう。

### ③ きちんと出席する

皆さんの出席予定に合わせて先生方はプリントの準備をしています。一度出席すると決めたら最後まできちんと出席しましょう。

### ④ 生活リズムを崩さないためにも

目覚まし時計代わりに使うのもアリです。

### ⑤ 先生によく聞く

講座内容などが分かりにくい場合は担当の先生に直接聞いてから申し込みましょう。勝手な思い込みで申し込むと、後々お互いに辛くなります。

## ○進路室ルール

3階に「進路指導室」、「進路指導資料室」が並んであります。（さらにその廊下奥に「進路室」がありますが、ここは3年生の担任の先生が使う学年部屋です。）

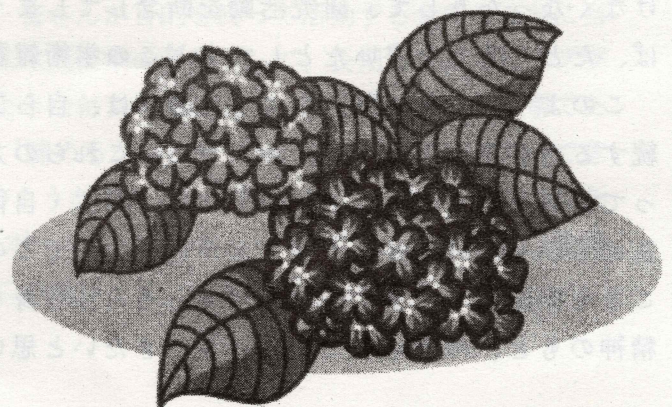
「進路指導室」には進路部の教員が常駐しています。聞きたいこと、相談したいことがあればいつでも来てください。

「進路指導資料室」は別名「赤本部屋」。大学の過去問や、さまざまな資料が閲覧できます。出入り自由。廊下の棚のものも含めて、赤本は赤本ルールに従って借りられます。それ以外の資料は進路指導室の先生に相談してみてください。3年生はもちろん、2年生、1年生もどんどん利用してください。

## 奨学金・教育ローンについて

1階経営企画室の掲示板、および3階進路指導室の掲示板に奨学金関係の連絡が掲示してあります。

今はちょうど「日本学生支援機構」による大学生向け奨学金の予約申し込みの時期です。3年生には全員にプリントも配布されています。よく読んで必要な人は手続きを行ってください。「国の教育ローン」のパンフレットも届いています。進路指導室前の廊下にありますので自由に持ち帰ってください。



## 社会貢献を仕事に

東京大学社会科学研究所 教授

庄司 匡宏 (50回)

私は現在、大学教員として各国の災害復興や貧困問題について研究をしています。私が研究者という仕事を目指すようになったのは、高校3年の頃でした。もともと途上国の貧困問題や環境問題に関心があった私は、将来はこうした問題の解決に貢献できる仕事に就きたいと考えるようになりました。ちなみに、私は1995年、新宿高島屋のオープン前年に新宿高校へ入学しました。ラグビー部に所属し、大学でもプレーを続けました。

研究という仕事を一言で表すと「新しい知識を生み出し、それを社会に生かすこと」です。被災地などへ行って現地調査をし、理論やデータを駆使しながらそこで起こっている問題を明らかにし、その結果を論文にまとめ学術雑誌に掲載することで、社会をより良くするための提言をするという、クリエイティブな作業です。たとえば、私が現在行っている新型コロナウイルスに関する研究では、「人々のソーシャルディスタンスを促すには何が必要なのか?」「新型コロナウイルスへの意識や行動に対して、SNSの利用はどのような影響を与えるのか?」などの問いに対して、数千人を対象とした独自アンケート調査を行い、統計分析をしています。

この仕事の最大の魅力は、社会問題の解決に貢献できることだと思います。10年前の東日本大震災では、原発事故の避難者に対して多くの偏見報道があり、それがきっかけで彼らを狙った犯罪まで起こりました。また避難者は、その報道に対し反論する機会さえないことを悔しがっていました。私はこの偏見や誤解を解きたいと思い、現地NPOとともに避難者を対象とするアンケート調査を行いました。私はその調査結果を論文にまとめ、多くの報道が避難者の実態と異なっていることをビジネス誌へも寄稿しました。

また、バングラデシュの洪水被災地で調査していた時には、慣れない土地で腹を下しながら調査を進めていた私に、現地のNGO職員が「とても重要な調査なので、その結果をぜひ共有してほしい」と言ってくれました。自分の研究が被災地の現場で役に立つのか半信半疑だった当時の私にとって、そう言ってもらえたのがとても嬉しかったのを覚えています。あの言葉がなければ、今は全く違う研究をしていたかもしれません。

一方で、この仕事にも苦労はあります。研究者は、自分の研究テーマは自分で見つけなければなりませんし、研究予算も自力で獲得する必要があります。また、独自性の高い論文を書くには、常に世界の最新の研究動向を把握していなければなりません。しかし、これは決して容易なことではありません。実際、研究者の中には、新しいアイデアが思いつかなくなったり、最新の研究動向についていけなくなったりして、研究活動を断念してしまうケースも少なくありません。また、独自性がなければ、たとえ論文を書いたとしてもどこの学術雑誌にも掲載してもらえません。

このように、良い研究をするためには、自らアイデアを考えそれを実行する力と、地道な努力を継続する力が求められます。もちろん、これらの力はどのような仕事においても大切でしょう。したがって、新宿高校のモットーでもある「自主・自律の精神」は、すべての社会人にとって重要な資質と言えるかもしれません。皆さんが高校生活でこの精神をしっかりと培い、将来に多方面で活躍されることを期待しています。そしてもちろん私自身も、新宿高校OBの名に恥じないよう、自主・自律の精神のもと、今後も努力を続けていきたいと思っています。